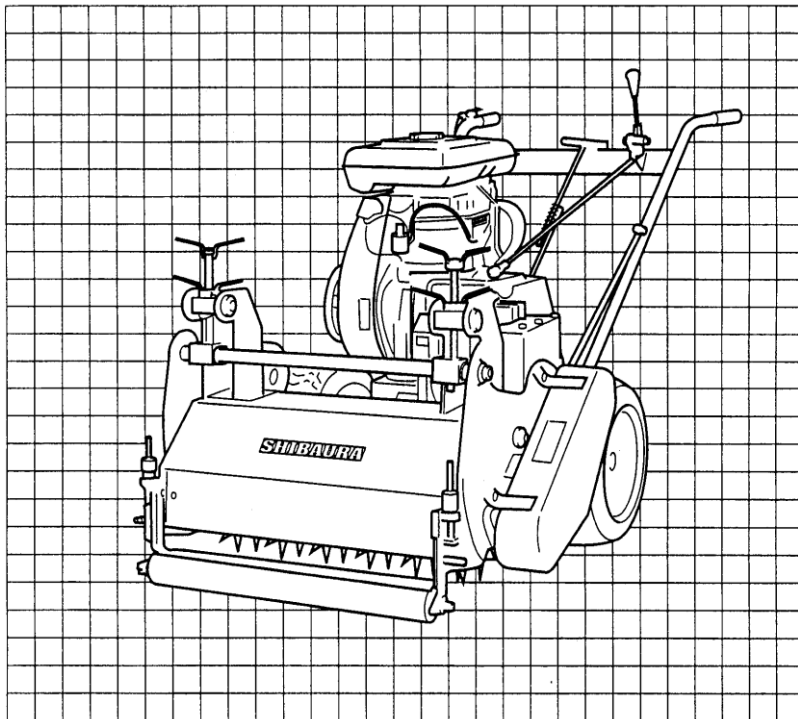


シバウラ自走バーチカルモア

取扱説明書

C-7



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をよくお読み下さい。誤った使い方を
すると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近隣して保管してくだ
さい。

この度は自走バーチカルモアC-7を御購入頂き、誠に有難うございました。
この取扱説明書を熟読して頂き、正しく御使用頂くよう御願い申し上げます。
より詳しいことが御知りになりたい場合、又は専門的な技術サービスが必要な場合には、
貴社の地域を担当する弊社営業所、代理店に御連絡下さい。
また、部品を御発注頂く際には、必要とする部品番号、部品名、数量に製造番号を必ず
御知らせ下さい。
製造番号プレートはカッターフレーム右側に有ります。
いつでも製造番号を参照出来る様、この番号を下記に記録しておくことをおすすめ致します。

型 式 C-7 型 製造番号 _____ 号

尚、弊社では絶えず、研究開発を続けております。従って一部変更により、本書と食
い違う場合もありますが、御了承願います。
御気付、御不明な点につきましては、御買上げの弊社販売店、代理店に御相談下さい。



安全について

作業を始める前に

- ・掃除や点検整備を行う時は、エンジン停止状態にて点火プラグキャップを抜いて、万一、他の人がエンジンを始動出来ない様にしてください。
- ・屋内でエンジンを回しながら点検する時は、換気に十分注意して下さい。
- ・作業場の下見をし、芝生の中に小石・ひも状のもの等が有りますと、刈物にはじき飛ばされ危険ですし、機械に損傷が出る恐れがあります。
- ・燃料キャップは完全に締め付けて下さい。
- ・燃料補給時は、必ずエンジンを停止して下さい。
- ・エンジンの作動中は高熱状態にあるので、絶対に燃料の補給をしないで下さい。燃料、又は揮発したものが直接エンジンに接触することにより、引火や爆発の恐れがあるからです。又、たばこを吸いながらの燃料補給、火の近くでの燃料補給は同様に危険ですから絶対に行わないで下さい。タンクに燃料を注入している時には、静電気による引火や、爆発の危険を防ぐ為ホースとノズル、燃料缶とじょうご等をタンクの金属部に接触させておいて下さい。

作業中の注意

- ・作業及び回送は、日中か十分な照明の下で行って下さい。
- ・エンジン・マフラー等の高熱状態にある物の上には、芝生、木の葉等を堆積させないで下さい。可燃物が堆積すると出火の原因になったり本機を破損させる場合もあります。
- ・斜面での作業は、10度を限度に上下方向でなく、横方向(等高線方向)に行ってください。
- ・斜面での方向転換は危険ですので行わないで下さい。
- ・作業中は周囲に人がいない事を確認して作業を行ってください。

安全の為に知っておくこと

- ・日常点検、整備を忘れずに。
- ・火災の恐れのある場所では作業をしない格納場所は火気のない所に置くなど火災予防に十分注意する。
- ・酒気を帯びた状態、体調不良な時は作業を行わない。
- ・本機の使用現場付近には、人を近づけない。
- ・作業着はダブついた衣服で行わない。ダブついた衣服は回転部分に巻き付いたり、操作レバーに引掛る恐れがあります。正しい服装にて作業を行って下さい。
- ・子どもには決して本機を運転させないで下さい。また、大人でも正しい取り扱い方法を知らない人には、運転させないで下さい。このマニュアルを読み操作トレーニングを受けたオペレータ以外は、運転してはいけません。
- ・飲酒運転は厳禁です。薬の服用後も、本機の運転は見合わせて下さい。
- ・カバーが正しい位置にあるか確認します。カバーや、指示ラベル等が不良であったり破損している場合は、運転前に修理または交換して下さい。また、ナット、ボルト、ねじ、等が緩んでいたら、安全運転を期するためにも、しっかりと締め直して下さい。

2. 諸元・性能

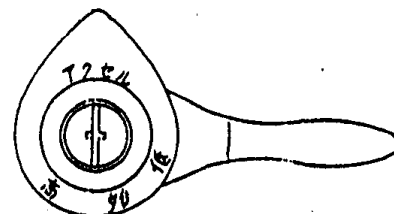
1. 機種名	19吋バーチカルモア
2. 型式	C-7
3. エンジン	ロビンEH34D 総排気量 : 338cc 連続定格出力: 5.9kw(8.0ps)/3600rpm 最大出力 : 8.1kw(11.0ps)/3600rpm 最大トルク : 23.6N. m/2500rpm 燃料 : 自動車用無鉛ガソリン 潤滑油 : API:CC SAE:30 (シェルロテラSX30)1.2L
4. カッター	特殊鋼 34枚刃
5. カッター昇降	フロントネジジャッキ昇降
6. 深さ調整	最大 35m/m
7. 作業能力	2,000~2,700m ² /h
8. 変速	前進2段
9. ミッション	FD20EC01 ギヤーオイル 1.0L AP1:GL4 SAE:90
10. タイヤ	13×6.00
11. 外形寸法	巾 850mm×高 980mm×長 1630mm

3. 各部の操作

1. エンジン始動と停止

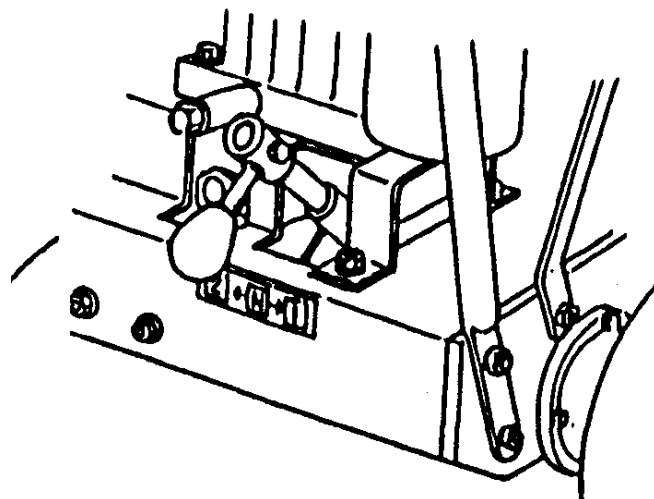
始動 エンジン始動の前に、走行クラッチ及びカッタークラッチが『切』になっている事を確認してから、リコイルを引いて下さい。

停止 走行クラッチ及びカッタークラッチを『切』にしアクセルレバーを戻し、エンジンに付いていますストップ釦をエンジンが停止するまで押し続けて下さい。



2. アクセルレバー

エンジンは低速から高速まで調整出来ます。
バーチカル作業は、原則としてレバーを引きエンジンを常用回転に保って使用しますが、深さ調整や芝の状況により、エンジン回転を調整します。



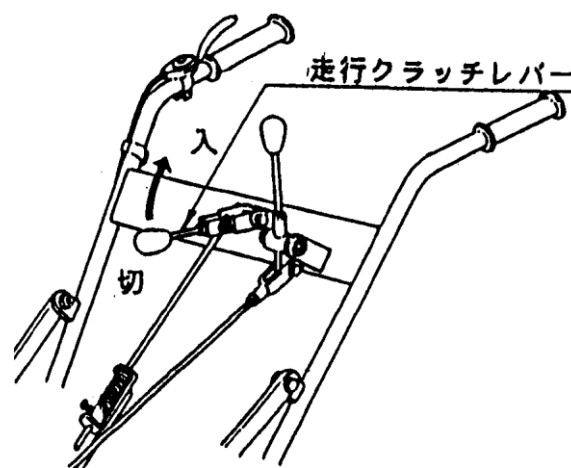
3. 変速切換レバー

フレーム後部のレバーにて、切換えます。原則として1速が作業、2速は回送になります。
変速レバーにて切換える時、本機走行レバー『切』にて本機停止後、平坦な所で変速して下さい。

4. 走行クラッチレバー

走行 走行クラッチレバー『切』を確認後、変速レバーを地形に合わせ適速に入れます。
エンジン回転を上げ、走行クラッチレバーを徐々に手前に引き、『入』の位置で走行を始めます。

停止 アクセルレバーを戻し、エンジン回転を下げ、走行クラッチレバーを前に倒し『切』の位置まで戻すと停止します。



注) 1. 作業は通常1速で行います。

2. 走行の際レバーの急激な操作はベルトの破損をきたしますので、必ず徐所に操作する様、御注意下さい。

5. カッタークラッチレバー(カッターの回転と停止)

回転 アクセルレバーでエンジン回転を定格回転

まで上げます。カッタークラッチレバーを

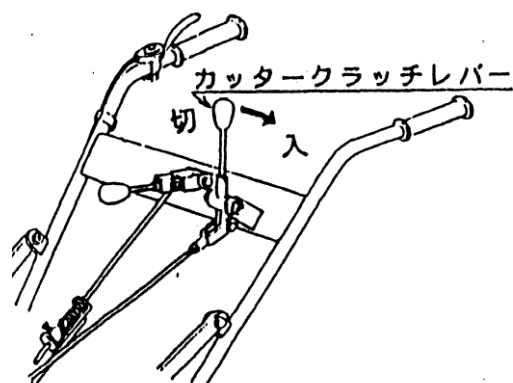
引くとカッターが回転を始めます。『入』

に入りましたらレバーは押さえないで下さい。

停止 アクセルレバーを元に戻します。カッター

クラッチレバーを止に倒すとカッターが停

止します。



6. 旋回

本機はトランスミッション内部にディファレンシ

ヤルギヤを装備していますので、旋回はハンド

ルを左右に振るだけで方向を決められます。

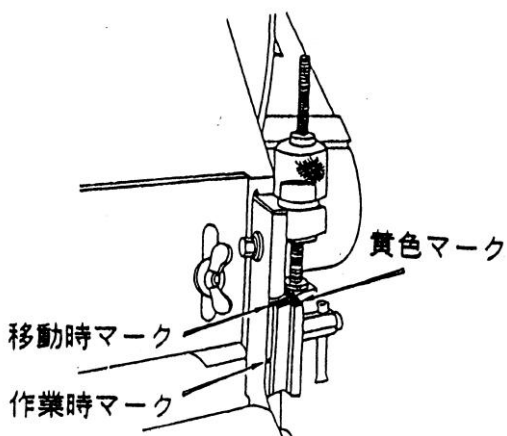
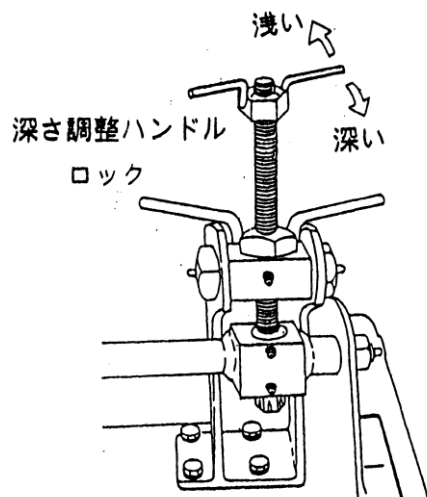
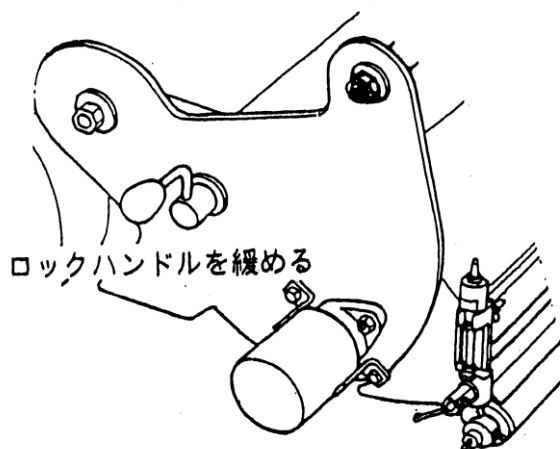
但し、作業時の旋回はハンドルを下に押し下げ、

フロント(バーチカル刃)を浮かして旋回します。

4. 各部の調整

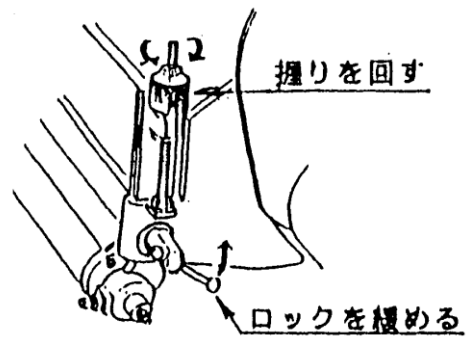
1. 作業深さ調整

- a. フレーム右側に有りますロックのハンドルを反時計に回しロックを緩めます。
- b. 深さ調整ハンドル下のロックを反時計に回しロックを緩めます。
- c. 深さ調整ハンドルを回し深さを決めます。
- d. 調整が終わりましたら、abで緩めましたロックを締めて下さい。
- e. 作業場所にて、前ローラー調整のロックを反時計に回しロックを緩めます。
- f. フレーム側黄色マークにローラーブラケットを作業位置に左右合わせます。



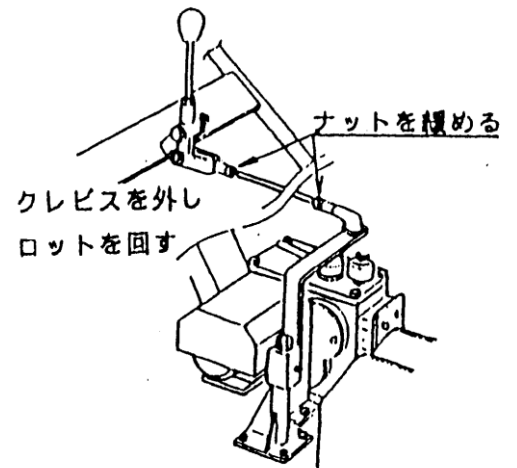
2.刃軸の振り変え

本機は刃軸が左右同じ様に作られていますので、本機を一方向だけで使用している場合、左右の刃軸を振り変えても使用できます。



3.カッタークラッチ調整

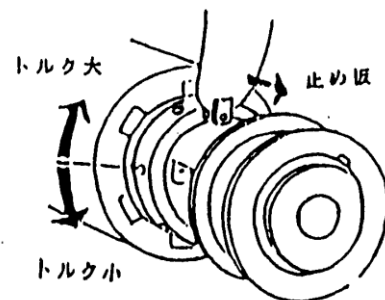
カッタークラッチ『入』にて、シフターリングに遊びが出る様にロットにて調整して下さい。



4.多板クラッチ調整

シフターブリーと本体の摺動面及びシフター部には時々グリス等を給油して下さい。給油の際ディスクに油が付着しますと、トルク低下を起しクラッチがスリップする事が有りますから、特に御注意下さい。

- ① 止め板を矢印の方向に引きナットの面に乗せませす。
- ② ナットを右に廻すと調整板とプレッシャープレートの間隔が減少して、トルクが増大します。
- ③ 調整板の調整穴数30個です。調整穴一個ずつ調整し、決して締め過ぎぬようにして下さい。
- ④ 調整が済みましたら、止め板をナットの溝位置に戻し、ピンが調整穴に合う位置にナットを調整して確実にピンを挿入して下さい。



5. 始業点検

1. エンジン

- ・エアークリーナエレメントの汚れを見て下さい。
 - ・エンジンオイルの量をゲージにて確認して下さい。
 - ・エンジン回りがきれいになっているか確認して下さい。
- 詳細は「エンジン運転前の点検」を御覧下さい。

2. ベルトの点検

- ・走行クラッチレバーを『入』にした時のベルトの張りの確認をして下さい。
- ・ベルトに割れは入っていないか、磨耗していないか確認して下さい。

3. ミッションオイル

ミッションオイルは、正逆転ボックス初回50時間、その後100時間毎に交換して下さい。

使用オイル API:GL-4 SAE:90 1ℓ(ミッション)

SAE:90 0.5ℓ(正逆転ボックス)

4. 各部のレバー類がスムーズに作動するか、又Vベルト、締付ボルト等の損傷、ゆるみ等ないか点検して下さい。

5. 注油箇所に指定グリース、オイルを注入し回転部、摺動部の潤滑を充分行って下さい。 特にカッタークラッチシフターリング部は十分に給油して下さい。

6. 保守・点検

1. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行して下さい。

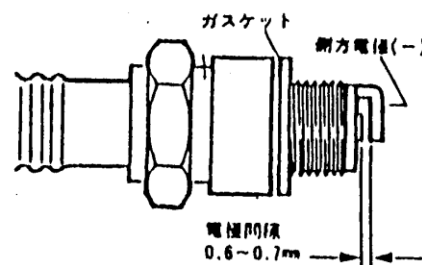
(普通の状態で使用の場合)

運転時間

	8時間(毎日)	50時間(毎週)	200時間(毎月)	500時間	1000時間
	○(毎日)				
エンジンオイルの点検・補給	○(毎日規定最大値まで補給する)				
エンジンオイル交換	初回 20時間目	○			
点火プラグの清掃		○			
エアークリーナの清掃		○			
燃料スレーナの清掃			○		
点火プラグ清掃と調整			○		
シリンダヘッドのカーボン除去				○	
				○	
				○	
オーバーホール				○	○

2. 点火プラグの清掃と調整

- ① プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナ又は、ワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。
- ② 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて0.6~0.7 mmに調整します。



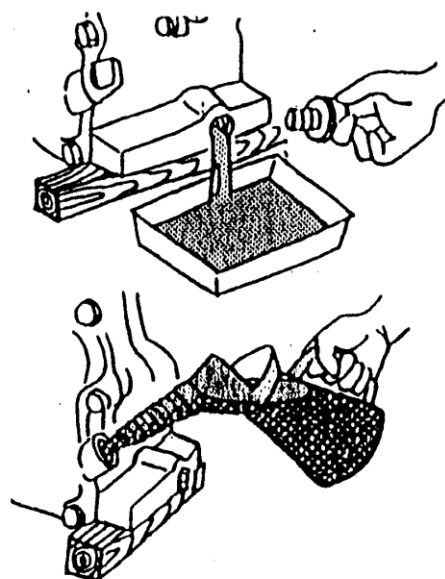
3. エンジンオイルの交換

初 回 20時間運転後に交換

第2回以降 50時間運転ごとに交換

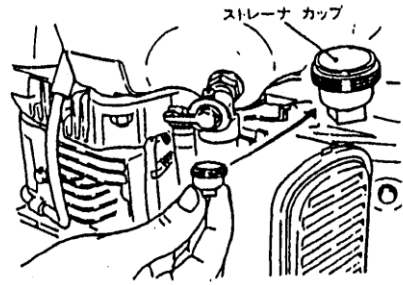
- ① オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜きます。オイルゲージを外しておくとも早く抜けます。
- ② オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり、締めて下さい。約1.2ℓ入ります。

注) エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用しますとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つよう注意して下さい。



4. 燃料ストレーナの清掃

- ① ストレーナカップ内に水やゴミが溜まっていないか調べます。
- ② ゴミ等が溜まっている時は、燃料コックを閉にし、ストレーナカップを左に回して外します。
- ③ ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、洗油(白灯油)で洗い、本体に完全に締め付けます。



5. エアークリーナの清掃

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアークリーナ元素の汚れが酷くなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

いつもきれいなエアークリーナ元素にしておくよう心掛けてください。

ウレタンフォーム元素

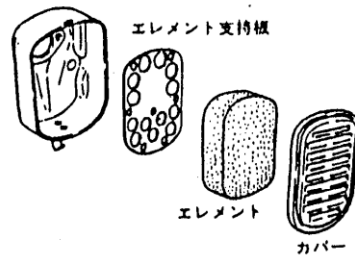
- ・ 元素を抜き取り、洗油(白灯油)で洗浄後、白灯油3:エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、固く絞って取付けます。

ウレタンフォーム不織布2重構造

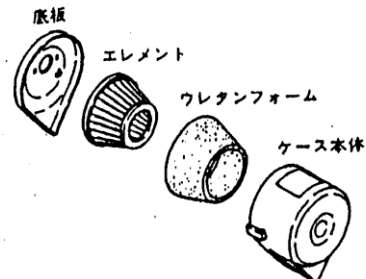
- ① ウレタンフォームは上記の方法で清掃します。
 - ② 元素は洗油で洗浄後、しずくを切ってから白灯油3:エンジンオイル1の混合油に浸し振り絞ってから取付けます。
- ・ オイルバス及びプレクリーナ付特殊エアークリーナを御使用の場合、それぞれオイルバンの清掃とオイルの規定量補給、タストパンの清掃を行って下さい。

ウレタンフォーム元素

ケース本体



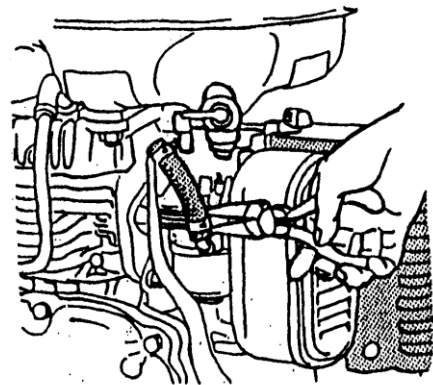
ウレタンフォーム不織布2重構造



6. 燃料パイプの交換

燃料パイプは2年で交換して下さい。

尚、点検時漏れ等のあるものは2年を待たずに交換して下さい。



7. 保管方法

日常の保管

- ① 使用する毎に必ず清掃を行うようにして下さい。
機械に付いた草や泥は、腐食の原因となります。
- ② エンジン回りのゴミや埃は、エンジンの故障の原因になります。
- ③ 各油圧バルブは締め、レバー類を戻し、キーを抜いて置いて下さい。
- ④ 機械に直接雨が当たらないようにして下さい。ただし、シート等でカバーをする時には、ある程度の通気が保てるようにして下さい。
- ⑤ ペイント、メッキのはがれ等がある時は、補修を行って下さい。
- ⑥ 清掃後には注油を行って下さい。

長期保管(シーズンオフ等)

- ① 必ず屋内に保管して下さい。もし屋外に置く時には、厚手のシート等を利用して、雨、風が当たらないようにして下さい。その時には、舗装の上で水の通り道でない所を選び中が蒸れないようにして下さい。
- ② 走行クラッチ、カッタークラッチは『切』の位置にして下さい。
- ③ 平坦な場所に置き歯止めを掛けて下さい。
- ④ 注油箇所に注油をし、振動部、回転部に潤滑スプレーを振りかけて下さい。
- ⑤ 防塵カバーを掛けて下さい。
- ⑥ シーズン初めには、特に気を付けて機械の操作を行うようにして下さい。



株式会社IHシバウラ

グリーン事業部
松本本部

〒390-8714 長野県松本市石芝 1-1-1 TEL 0263(25)4502 FAX 0263(26)7517

北海道事務所	北関東事務所	東海事務所
東北事務所	西関東事務所	岡山事務所
関東統括事務所	松本事務所	九州事務所